



令和五年度 羽島市社会人権教育推進事業

「人権作文コンクール」

優秀作品集



目次

最優秀賞

『ちがうからこそ、良さがある』

中島小学校六年

足名 奏音

1
ページ

好きなものを好きと言えたら。

中島中学校三年

河路 陸峠

3
ページ

優秀賞

みえないところ

中島中学校二年

今嶋 千晴

5
ページ

(敬称略)

「人権作文コンクール」優秀作品集

私たちは、幸せで明るい社会で暮らしたいと願っています。また、人権侵害のない明るい社会の実現は、私たちの永遠の願いです。しかし、私たちのまわりを見ると、まだまだ保障されているはずの基本的な人権が侵害され、偏見や差別に苦しんでいる人がいます。

「人権作文コンクール」は、このような社会の中で、児童・生徒一人ひとりが、今自分たちのまわりで人権に関して何が起きているのかを見つめ直し、自分たちは何をしなければならないのかをじっくりと考えてもらうために実施しました。

この作品集は、たくさんの応募作品の中から、特に優秀とされた児童・生徒の皆さんの作文を掲載したものです。子どもたちの人権に対する考えに耳を傾けていただくと共に、人権教育に関わるさまざまな場で活用していただければ幸いです。

【応募概要】

1. 作文内容

日常の家庭生活や学校生活あるいはグループ活動などの中で得た体験を通じて、基本的人権を守ることの重要性、必要性について気付いたこと、考えたことなどを題材とする。題名は自由。

2. 募集対象

市内の小学校、義務教育学校、特別支援学校小学部に在籍している5・6年生及び市内の中学校、義務教育学校7～9年生、特別支援学校中学部に在籍している生徒に相応する学籍または年齢にある者。

3. 応募総数

43点

(内訳)

| | |
|------------------|-----|
| 小学5年生及び義務教育学校5年生 | 17点 |
| 小学6年生及び義務教育学校6年生 | 17点 |
| 中学1年生及び義務教育学校7年生 | 2点 |
| 中学2年生及び義務教育学校8年生 | 6点 |
| 中学3年生及び義務教育学校9年生 | 1点 |

4. 審査員

羽島市社会人権教育推進協議会委員11人、生涯学習課長

5. 賞の授与等

最優秀賞2点、優秀賞1点、入選9点

入賞者に表彰状と副賞を授与、最優秀賞及び優秀賞作品を人権作文集に掲載

※作品の掲載に際して、作品内の個人が特定できる情報などは、作成者に確認のうえで修正または削除しております。ご了承ください。

最優秀賞

『ちがうからこそ、良さがある』

中島小学校 六年 足名 奏音

五年生の終わり頃、お母さんが言った。

「奏音、友達とあまり悩まずに付き合えるようになったね。すごくいいことだよ、成長したんだね。」

ぼくは、うれしかった。友達付き合いで悩んでいたことを思い出すと、今の自分は、少し変わったような気がする。

四年生の時ぼくは、友達との付き合い方で悩むことが多かった。ぼくは真面目な性格で、家族から、「奏音は考え方にちょっと固いところがあるよ。」と言われる。友達が、ふざけすぎていると、ぼくは放っておけずに、強く注意してしまう。そして相手が困惑してしまう、ということが何度かあった。

ぼくにも、仲のいい友達はいて、友達との時間は、とても楽しい。でも、気が合わない相手のことは、なかなか受け入れられずに、仲良くできずにいた。友達に対して、不愉快に思っても、怒ってばかりでは良くないし、かといって、無理に仲良くも出来ず、学校での過ごし方にストレスを感じていた時期があった。

人権について考えた時、悩んでいた頃に言われた、お母さんの言葉を思い出した。

「クラスメイト全員が親友じゃなくていいんだよ。気が

合う子もいれば、合わない子もいてもいい。色んな友達付き合いがあつていいんだよ。」

言われた時には、しつかり意味を理解できなかつたけど、今になって、段々分かってきた気がする。

人権とは、人が人として社会の中で、自由に考え、自由に行動し、幸福に暮らせる権利だ。人は皆、顔も性格も考え方も、それぞれがう。クラスの中にも、野球が得意な友達や絵が上手な友達、いつも面白い友達、色んな友達がいる。友達には出来て、ぼくには出来ないことがあってもいい。その反対のこともある。そうやって、相手のちがいを認めることが、人権を尊重することなんだと、ぼくは気付いた。そして、お母さんの言葉とつながった。気が合わないからダメなわけじゃない。ぼくは、ぼくでいいように、その人は、その人でいい。これが、人権を尊重することなんだと思った。

「あの子は皆とちがう。変わっているから、おかしい。」とちがいを否定すると、仲間外れや無視が始まり、いじめになっていく。それは、人権を侵害することになってしまふ。

皆、一人一人がちがって、それぞれに良さがある。その良さに、皆が気付くことが大切だと思う。ぼくの学年は三十二人の仲間がいる。皆がちがっているからこそ、楽しい学校生活を送れている。

四年生の時より、ぼくが変われたのは、ぼくにも、友達にも、ちがった良さがあることに気付けたからかもしれない。これからも、ぼくは周りの人の良いところを沢山見つ

けていきたい。皆が周りの人の良さを見つけ、ちがいを認め合える社会になってほしい。

好きなものを好きといえたら。

中島中学校 三年 河路 陸峠

好きなものを正直に好きと言えたらどれだけ楽なんだろうと考えたことがある人はいませんか？僕は、この人権作文を書くにあたって改めて感じました。

例えば、友達やみんなと話している時に他の人の意見に合わせたり相手の反応を伺って言えなかったり言いづらい時があると思います。自分の好きなものやことを否定されたりバカにされたりすることはとても傷つきます。でも好きなことを躊躇せずに言うことができたらどれだけ気持ちに余裕ができるでしょうか。

ずっと言えずに抱え込むととてもストレスがかかります。なぜ言いたくないかは人それぞれたくさん理由があると思います。

僕は可愛いものが好きです。可愛いものは女性が好きというイメージがどうしてもあると思います。だから僕はそんな自分をさらけ出したいとは思いません。否定されたら怖いんです。バカにされたり、引かれたりするかもしれない。そんな言葉が頭をよぎります。

だけど、どこか自分の好きなものやこと、共通の趣味などが合う人と話してみたい！と思う時があります。

今までの自分を振り返ると自分の意見をあまり細かく言おうと思つたことがあります。否定されると悲しいからです。また、みんなに好かれようと意見を合わせ

ようとしていたけど、人それぞれの考え方があるのでみんなと必ず合う訳ではありません。なので全員に無理やり好かれようとする必要はないと気づきました。

また、自分の思っていることを言つて、否定されたりバカにされたりした時は、前まではずっと引きずっていたけど、自分で自分の意志を弱くしてしまうと相手が間違っていたとしても自分で相手があっているからと言って無理やり考えを変えようとしてしまうので、酷いことを言われてもこの人はこういう言い方しかできないんだと心の中で思つて前を向くようにしました。これからも、その言われた言葉を自分も誰かにつけるのではなくこれを言われたら嫌な気持ちになつたということを忘れないようにして、自分の発言に責任を持てるようにしたいです。相手の考えを尊重することは大切だけど、間違っていることは間違っているとしつかり言える人にもなりたいたいです。

最近、LGBTやトランスジェンダーなどの話題を耳にします。

LGBTは、レズビアン⇨女性同性愛者、ゲイ⇨男性同性愛者、バイセクシュアル⇨同性愛者の3つの性的指向とトランスジェンダーのジェンダー・アイデンティティ、各単語の頭文字を組み合わせた頭文字であり、特定の性的少数者を包括的に指す総称です。トランスジェンダーとは持つて生まれた体の性が心の性と一致しない。この、自身の体の性に対して違和感を持つ人のことを指します。

このようなことに対して差別や基準などない普通と比べて否定する意見があります。

学校ではいじめやからかいの対象になることが多いです。「男のくせに」「気持ち悪い」などと侮蔑的な言葉を投げかけられ、自尊心を傷つけられる。また、家庭の中でも親から虐待を受けたり、精神科に連れていかれたりする事例もあります。「誰にもバレたくない」という思いから相談相手・場所も見つからず、不登校や最悪の場合には自殺に追い込まれることもあります。

就職活動の際には、「男性」「女性」の選択肢しかない履歴書の性別欄で悩まされる自身の問題に加え、就職活動でカミングアウトした際に面接を打ち切られたり、内定を取り消されたりするケースがあるみたいです。就労面では、同性愛やトランスジェンダーをネタにした冗談やかからかといったハラスメントのほか、昇進・昇格にも影響を及ぼす場合もあるそうです。

誰もが自分らしく生きられる社会にするために。日本だけでなく、世界でも多くの性的マイノリティの人たちが偏見や差別を受けています。

欧米では、同性婚を認めている国が多いです。また、これらの国では、性的指向および性自認を理由とした差別を禁止した「差別禁止法」も同時に整備されているところが多いです。他にも自身の性別について自分で決められる「性別認定法」・トランスジェンダー法が設けられています。

このように自分の好きを言えずに困っている人、辛く感じている人はたくさんいます。誰もが自分らしく生きるには誰もが相手のこと、考えを理解する必要があります。自

分とは違う考えでも同じように生きています。

世界的にも理解が広がる中、自分の好きを堂々と言える環境をみんなで作りませんか。

優秀賞

みえないこころ

中島中学校 二年 今嶋 千晴

「こころってどこにあるのかな。」

私はある授業がきつかけで今まであまり考えたことが無かったこころについて考えるようになりました。講師の先生が最初に私たちに次のように聞いたのです。

「こころはどこにあると思いますか。」

と。私は今まで考えたことが無かったなと思い、とても興味をもちました。緊張すると胸がドキドキしたり、嫌なこと、悲しいことがあると胸にぽっかり穴が空いたような感覚になったり胸がちくちくして痛んだりすることがあるので胸のあたりにあるのかなと思ったり、いろいろな指令を出すのは脳なので脳のかなとも思ったりしました。しかし、話を聞いていると心理学者でもまだ分からないそうです。私はこころがどこにあるのか分からない、誰にも見えないことで私たちにどのような影響を与えているのか考えてみました。

一つ目に考えたのは私たちの身近なところで起こってしまっている「いじめ」についてです。いじめの一つに暴言があります。相手のこころが見えないことで相手がどう思っているのか、どう感じているのか分からない。それが

きつかけで「このくらい大丈夫でしょ。」と暴言を言っている側が勝手に決めつけてどんどんエスカレートしていった、ときには「バカ」「アホ」「クズ」など言われたら必ず傷ついてしまうような言葉でも「ふざけて言っただけだしこのくらい大丈夫でしょ。」と感じるようになっていってしまうと思います。言葉というものも心と同じで目には見えません。見えないということはとても難しいことだと私は思います。言葉は当たり前のように普段使っています。一つ間違えば相手を簡単に傷つけられる武器になってしまいます。ナイフで刺せば血がでる。殴ればあざになる。など暴力は目に見えて分かります。しかし暴言というものは、ただだけ言われても血がでるなど外見から分かる症状はありません。血がでるなど目に見えた症状はありませんがこころはどんな傷ついていきます。擦り傷は処置をすれば数週間で治りますがこころにできた傷というものは見えないので、手当てもできず一生その人の人生につきまとうてしまいます。私たち人間は自分が傷つけた言葉を覚えることが得意です。しかし、自分が傷つけた言葉は分かりません。だからこそ一つの言葉に責任をもって大切に使うべきだと私は思います。

二つ目は、周りの考えが分からないと不安になってしまふことがあると思います。相手に自分の気持ち、考えを分かってもらうためには当然自分で伝えるしかありません。しかし、私は自分の考えを相手に伝えることが苦手です。なぜなら、相手が自分の考えをきいてどう思ったのかが分からないので、「相手はどう思っているのかな。」「間違っ

たことを言ったり行ったりしていないかな。」と不安になつてしまうからです。自分の考えを伝えないと相手に分かつてもらえないけれど、相手の考えが分からないと人によつては意見を発することが難しくなつてしまうと思ひます。なので意見を発する側が少しでも安心できるように、話の聞き方など話を聞く側、受け取る側の工夫も必要だと私は思ひます。

ところが見えないことで私たちは普段生活する中で苦勞することが多々あると思ひます。そんな時、相手のころは見えないけれど少しでも分かるようにまずは分かるうとする努力が必要だと思ひます。努力といつても難しいものではなく、話をきくときに相手の目を見る。相づちを打つ。相手の話に反応する。など少し意識すれば出来ることとがたくさんあります。また、自分が話すときには一度相手の立場になつて考えてから発言するなど、話を聞くときも話すときも相手に対して少しの気遣いと行動に起こすことが出来れば相手のころは見えなくても良い関係を築いていくことが出来ると思ひます。ころは見えないからこそ大切にしていきたいし、見えないからこそ一人一人、一つ一つのころに向き合つていきたいです。

羽島市市民協働部

生涯学習課

羽島市竹鼻町 55 番地

TEL 058(392)1111

令和 5 年 11 月